



7月30日(金) 曇りのち晴れ。

昨日、野焼きをした土器を灰の中から取り上げる土器上げの日です。

壊れずに焼けているか、心配しながら覆いかぶせてあったトタンを取り除くと、薄いピンクがかった赤褐色に焼きあがた土器が姿をみせました。



「きれいな色に焼けている」「壊れていない、よかった。」と歓声があがりました。

まだぬくもりが残る土器を大切に、炭や灰の中から取り出し、かかっている灰をていねいに取り除きました。

陶芸家の宮本先生と(公財)滋賀県文化財保護協会の鈴木先生から、塾生がつくった土器、ひとつ一つに対して、講評いただきました。



縄文土器の特徴である縄の模様がしっかりとついた土器や、土器の上端に大好きなコブラをのせた作品、土器の上端に飾りの穴がけられたものなど、どれもユニークで、想像力溢れる力作ばかりでした。 つづく





午後からは、丹波の森公苑のグラウンド近くの柏原新橋そばの柏原川に入り、水生生物の観察を行いました。

指導は、丹波地域のホトケドジョウを守る会の山科会長にお願いしました。



魚とり網を構え、岸辺で水草や植物が根をはっている周囲を足でガサガサするとヌマムツ、オイカワ、タカハヤ、ドンコ、モツゴ（クチボソ）、ムギツク、ヨシノボリといった淡水魚が捕れました。

体長約60cmのナマズも捕れ、塾生はびっくり。（観察後、元の川に戻しました）



ナマズ



ムマムツ



また、ザリガニ（幼体）、スジエビ、ミナミヌマエビのエビ類やミズカマキリ、コオイムシ、イトトンボの水生昆虫も確認できました。